



栄光の未来

R5.5.8 発行

第2号

「5類への移行」で、考え、取り組むこと

これまで分類上で2類相当であった新型コロナウイルス感染症が、今日から5類に変更となりました。3月13日からマスクの着用が個人の判断に委ねられるようになり、4月からは学校でもこれが適用となりましたが、これに続く大きな変更と言えるものです。

このタイミングで、しっかりと認識しておきたいことがあります。

新型コロナウイルスの分類、2類相当から5類に引き下げで何がかわる？



- 行政上の分類や対応が変わっても、感染症そのものは何ら変わらない。
- 感染力は強く、現状でも私たちの身近にあり誰もが感染する可能性がある。

一方で、このような措置が行われる理由についても、私たちは正しく理解しておく必要があります。

- 持病がある人や高齢者以外では、重症化するリスクが非常に小さい。
- 第8波が収束してから、大きな感染の波が生じていない。

また、過度な感染症対策によるデメリットや損失も理解しておかなければなりません。

- 学校を閉じることで、学校が地域から遠い存在になってしまう。
- 過度なマスク着用が、互いの表情を見ながらのコミュニケーションを妨げる。

これらのことをもとに、これからの学校生活の在り方、さらには家庭や社会での生活の在り方を自分自身で深く考え、自身の行動を決めていくことが大切です。「正しく判断し、責任をもって自己決定する」ことは、自分が校長として東石山中の生徒の皆さんに求めたい姿そのものです。

「正しく恐れる」ことで、学校生活の充実を！

自分は常々、「正しく恐れる」ということを意識しています。現状を正しく認識し、適切な感染対策を講じながら、生徒の学習・活動を可能な限り保障することが、これからの学校には必要だと考えるからです。現在の新潟市における1日あたり新規感染者の発生率は約0.01%。この状況で「リスク0」を求めるつもりはありません。感染症との共存の在り方を考え、何がベストかを模索し続けながらの毎日です。自分は4月以来マスクを外して生活していますが、感染リスクと豊かなコミュニケーションを天秤にかけた結果の判断なのです。過度に制限のかかる学校生活を皆さんに強いることは、学校の姿として望ましくないと考えています。

置かれている状況は一人一人違います。だからこそ、学校や社会での過ごし方を自身の判断と責任で自己決定する力と、互いの選択を受け入れ合える寛容さが大切なのだと思います。

「Withコロナ」時代の始まり = リスクと共に生きる



「正しく恐れる」

過度に恐れず、あなどらず

- ・ 毎日の検温や健康観察
- ・ 大声を抑える、咳エチケット
- ・ 手洗い、アルコール手指消毒
- ・ 常時換気を基本とした換気の徹底
- ・ かせ症状 → 学校に来ない



4月全校朝会の校長講話プレゼンより